

## 向山塗料 SDG s の取り組み

2022年度（1月～12月）の各部門とチームの活動のテーマと動機、活動の報告です。

2022/12/23

	行 動	目 的	動 機	SDG s の使い方	活動報告
1	軽油・ガソリンの使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト削減</li> <li>・C o 2 削減</li> <li>・化石燃料の使用削減</li> </ul>	温暖化防止への取り組み 効率化を図り、無駄をなくす	従業員の省エネ意識をSDG s 活用を通じて改善する。 無駄な燃料消費を減らし、効率化を図ることで 気候変動への対策とする。	ガソリン：前年度比 -2.2%を達成しました。 軽油：前年度比 -9%を達成しました。 車両の燃料消費の削減は両部門とも削減できました。配送の増減による影響を受けやすいのですが、今年度は売上を上げながら削減することが出来ました。引き続き車両の見直し、配送ルートの見直し、アイドリングストップ等の活動を通じて削減を図る。
2	電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト削減</li> <li>・C o 2 削減</li> </ul>	温暖化防止の取り組み 無駄をなくす	従業員の省エネ意識をSDG s 活用を通じて改善する。 無駄な電気の使用を減らし、エネルギー消費を減らす。	200V電源：9%上昇（冬場、夏場の空調機の使用が増えて為、使用量が増えた） 100V電源：16%上昇（通年を通して上昇してしまった）  200Vの動力電源に関しては、寒い期間の空調機の使用時間が長くなってしまった為、使用量が増えてしまった。また、夏場に関しても、今年は異常気象により、暑くなり始める時期が早くなったことと、使用時間が長くなったことが影響している。適切な使用を心掛け、付ける・止めるなどの基準の徹底を図る。 100Vの電気に関しては、空調機の使用と細かい電気の使用により大幅に増えてしまった。今年から電子レンジを設置したことも増えた要因になっている。大きく増えた月もあった為、対策を講じて次年度は抑えられるように使用量の管理を行う。
3	廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源の有効活用</li> <li>・化石燃料の使用削減</li> </ul>	資源の有効活用 再利用・分別	従業員の“モノ”に関する考え方をSDG s 活用して改善する。持続可能な消費形態の確保。再利用の促進。	今までも継続してきた廃缶の資源として排出（日東金属様への処理）。ビニール（田丸様）・紙の再利用（甲府商工会議所様）への排出を継続する。 全国の販売店でも話題になっている「使えるのに使えない塗料（色が違う・量が少ない・塗料が変更になった・少し残ってしまったetc）」の再利用方法に関して、埼玉の先進事例なども参考にしながら山梨でも取り組むことができないか調査を行う。
4	遮熱塗料の販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー消費の削減</li> <li>・建築物の保護</li> </ul>	温暖化防止の取り組み 遮熱塗料の拡販	遮熱塗料の塗装により、エネルギー消費量の削減 健康な生活・建物の保護	販売量の増減を管理し、遮熱塗料の販売量が増えることで省エネや構造物にかかる熱からの劣化を減らす。遮熱塗料は太陽光の赤外線部分を反射することにより、屋根や壁の温度上昇を抑え、ひいては内部の温度上昇も抑えます。 ※注意 建物の構造や断熱材の仕様によって効果が分かりにくい場合があります。 屋根や壁だけでなく、窓の対策を行うことで温度上昇をより抑えます。 2022年度は前年度の500缶の販売缶数に対して328缶と-35%の販売缶数でした。大型の現場での使用だけではなく、住宅などでも使って頂けるよう、効果の周知や窓の対策についても合わせて提案できるように準備する。

5	自然塗料の販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>石油起源塗料の使用量削減</li> <li>建築物の保護</li> </ul>	植物由来の塗料を使うことで持続可能な生産消費形態の確保	石油原料の削減によるエネルギー消費量の削減 健康的な生活・建物の保護・循環型	<p>自然塗料は木部用の塗料です。オスモカラーを中心に自然塗料の販売数を増やすことで、石油由来の塗料を減らし、塗料の乾燥時に出てくる化学物質による人体への影響を削減する。また、自然塗料は植物の油（なたね・ひまわり・米・荳胡麻・）を主原料にしているので環境にやさしい塗料です。</p> <p>2022年度は前年度の962 Lの実績に対して1055 Lでした。10%販売量が増加しました。キャンペーンなどを通じて自然塗料の周知を行っていく。</p>
6	ペレットの販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林資源の有効活用</li> <li>再生可能エネルギーの使用</li> </ul>	地域循環型社会の構築	森林資源を熱源としたストーブ燃料 森林資源の循環（木の活用→植林）	<p>弊社ではペレットストーブの販売を行っています。循環型社会の構築に向けて資源の再利用が可能なペレットを燃料としたストーブを使うことで、CO<sub>2</sub>の排出削減を目指しています。</p> <p>これまでもペレットストーブの累計販売数は30台です。本年は1,153袋のペレット販売しました。</p> <p>弊社では2台のペレットストーブを利用しています。エネルギーのクリーン化を図りながらペレットストーブの販売にも力を入れていく。</p>
7	塗料の水性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>石油起源塗料の使用量削減</li> <li>建築物の保護</li> </ul>	溶剤塗料から水性塗料への転換を図る	溶剤塗料の削減による石油原料の削減 水性化による大気への影響の削減 人体への影響を削減	<p>メーカーへの働きかけを進めていく。</p> <p>メーカーの塗料の水性化の動き活発で、長年の研究によって油性の塗料と遜色のない水性塗料が多く発売されている。弊社でもどこに塗装するのかによって塗料が変わる為、お客様の話伺いながら、より環境負荷の少ない塗料を薦められるように「メーカー勉強会」や「社内勉強会」を通じて常に知識を高めるように心がけています。</p>
8	ペーパーレス化	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙資源の削減</li> </ul>	紙資源の使用を減らし、デジタル化	無駄な紙資源の削減 デジタル化により、紙を使わないようにする	紙の資料量を管理し、使用量の削減に努める。
9	ゴーヤネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物による庇</li> </ul>	日影をつくって室内の温度上昇を抑える 作物の生産	室内の温度上昇を抑え、空調機の使用量削減 ゴーヤを食べる 緑化活動	5月のゴールデンウィーク明けにネットを設置し、ゴーヤを植える。8月の西日の社内への侵入を防ぎ、温度上昇を抑える。また、出来たゴーヤはお客様に配ったり、社員が持って帰って消費する。
10	COOL・WERM BIZ	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量の削減</li> </ul>	服による調整	空調機の使用量を服の調整によって削減する	夏場・冬場の電気使用量を抑えるために服による温度調整を心掛け、空調機の使用時間を短くする。

SDGs活動チーム

チーム名	テーマ	活動内容	活動報告
KYT	1.遮熱・断熱塗料の拡販 2.遮熱フィルムの研究	1.体感できるところに塗ってみる。効果を測定する。 2.遮熱フィルムについても実際に施工してみて効果を測定する。	1.7月に危険物倉庫として使っている2号棟に耐火化学工業の「GAINA」という断熱塗料の塗装を行う。 壁を上段と下段に分けて、上段にN-95という白色。下段N-60というグレーを社員で勉強もかねて塗装しました。本来はGAINAを塗前に室温の観測や変化を調べなければいけませんでした。「早く塗らないとなつになってしまう」という焦りから、なんの事前調査もなく塗ってしまいました。反省点です。 2. フィルムに関しても調査をせずに貼ってしまいました。 フィルムを貼った部屋は、夏場に西日が当たって暑くなる部屋の為、遮熱フィルムを貼ることで温度上昇を抑えることにしました。11月に施工したので、来年の夏に温度変化を体感で確認します。  1.2. 共に事前調査を怠った事で違いを数値で確認をすることができません。来年の活動の中で確認を
クリーンムコ	1.会社周辺の清掃活動 2.女性の活躍会社	1.小瀬スポーツ公園などの施設の周辺清掃を行う。 2.弊社に勤めている女性3人の感性や考えを聞き取り、店舗の改善や働きの方の改善につなげる	1. 3か月に1回、場所を決めてゴミ拾いを行う。 7/19 小瀬スポーツ公園のゴミ拾い 10/14 けやき通りのゴミ拾い を実施しました。  2. 女性社員とのコミュニケーションを図り、悩み事や困りごとを聞く。  地域・社会貢献に対しては、引き続き清掃活動を通じて住みよい街づくりを続けていく。また、いままで活動した2カ所はきれいに掃除されていたため、次年度は事前に清掃力所を確認して、より効果のある取り組みにしていく。 女性活躍に関しては、今年度はコミュニケーションを増やすくらいで終わってしまった為、次年度は聞かせてもらったテーマをより深堀出来るようにチームで活動していく。
MPライフ	1.健康・生きがい 2.高耐候塗料の拡販	1.社員の健康管理の為、体力測定などを定期的に行い、健康維持に努める。 また、健康経営の取組についても研究する。 2.高耐候塗料について、各社の材料を比較し、「11.住み続けられるまちづくり」の一助になれるように研究し、お客様に提供する。	1.簡単な体力測定を実施した。  2.高耐候塗料の一覧表などを作成し、まずは社員が見やすい表を作成した。また、比較しやすいように塗板も取寄せ、展示することで比較しやすくする。  健康に関しては、定期的な体力測定を行い、社員が健康に働けるようにいろいろな測定を続ける。 また、健康経営に関しては次年度の取組として事例の研究を行う。 高耐候塗料に関しては、お客様に提供できるように内容を精査し、塗板等と合わせて役立てるものにしていく。
<p>総括： 今年の1月からSDGsの取組を開始しました。始めは今まで行ってきたISO自己適合宣言の流れで、各個人にテーマを与えて17の目標に対する活動を行おうと考えました。ただ、個人で目標では全体の統一感も図れず、バラバラな活動になってしまう懸念もあった為、11名の社員を3つのチームに分けて、活動することにしました。上記が今年度の活動の報告になります。始めてチームに分かれて行うということもあり、何をテーマにするか迷ったチームもありましたが、実行委員会を設置して、事前に各リーダーの考えを聞きながらテーマを整理することで、それぞれのチームが活動しやすくなった。</p>			
<p>次年度に向けて 今年度の報告を受けて、次年度も同じチームで活動します。今年行った活動の反省点なども見直しをしながら、SDGsを取組を深めていきます。2023年度も同じテーマでより内容を深め、前年度の反省も踏まえながら、取り組んでいきます。</p>			